

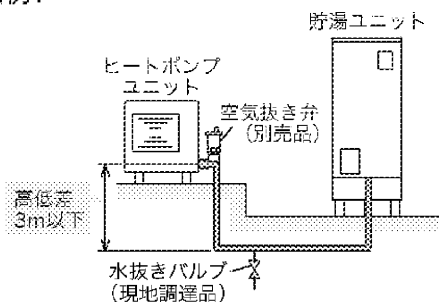
各配管の制約

長期不在時、凍結防止のために水抜きが必要な地域では、配管の最下部に水抜きバルブを取り付けてください。

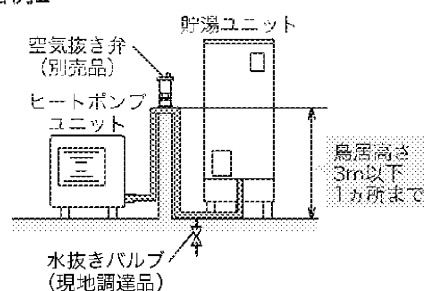
ヒートポンプ配管の制約

- 長期不在時、凍結防止のために水抜きが必要な地域では、配管の最下部に「水抜きバルブ」を取り付けてください。
 - 高低差が1m以上の場合、湯側の最上部に「空気抜き弁」を取り付けてください。
 - 鳥居配管はできるだけ避けてください。(空気が抜けにくくなります。)
- 鳥居配管を行う場合、試運転の準備②ヒートポンプユニットの空気抜きを十分に行ってください。

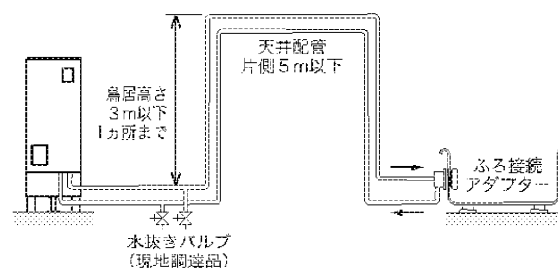
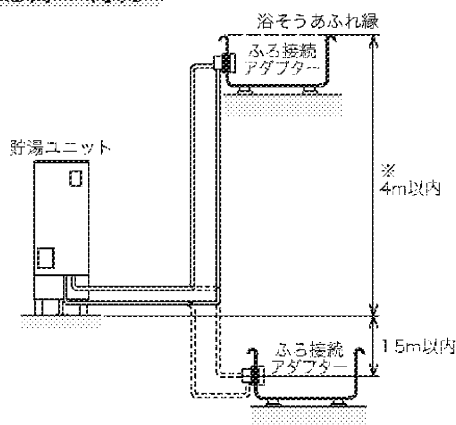
■ 配管例1



■ 配管例2



ふろ配管の制約



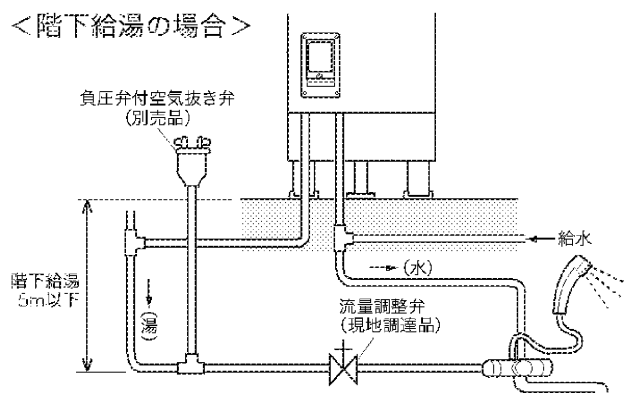
注) 長期不在時、凍結防止のために水抜きが必要な地域では、配管の最下部に水抜きバルブを取り付けてください。

※パワフルシャワー型フルオートタイプの場合

別売の水位センサーに交換することにより、4~7mの浴そう設置(3階対応)が可能です。
給水圧力が低いと、十分な性能が得られない場合があります。

給湯配管の制約

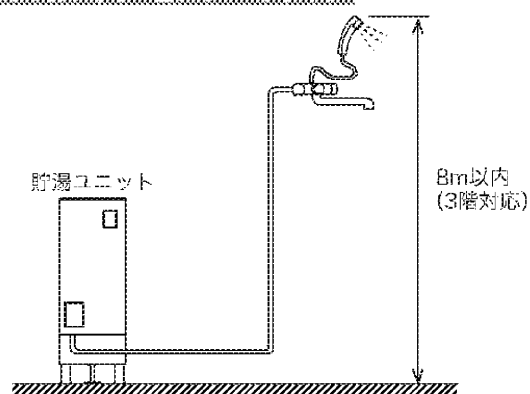
<階下給湯の場合>



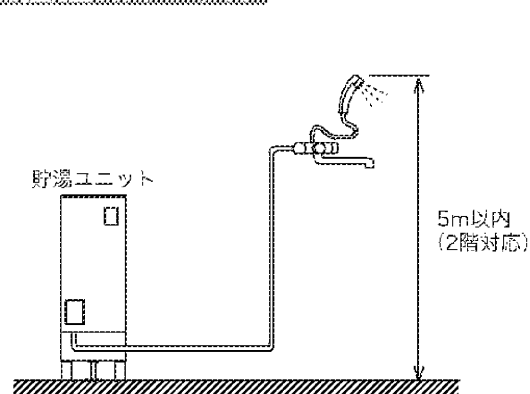
- 給湯配管には必ず負圧弁付空気抜き弁(別売品)、流量調整弁(現地調達品)を取り付けてください。
- 空気の混ざったお湯が出る場合は、貯湯ユニットへの給水量が不足しています。流量調整弁で給水量と給湯量のバランスを調整してください。

<2階、3階給湯の場合>

2階給湯の場合



3階給湯の場合



- 3階ではシャワーは使用できません。
(手洗い程度であれば使用できますが、洗髪洗面化粧台は使用できません。)

⚠ 注意

- 給水圧力が低いと、十分な性能が得られない場合があります。
- マッサージシャワーヘッドのような抵抗のあるシャワーヘッドを使用した場合、十分な性能が得られない場合があります。